

楽譜・AV資料の検索におけるOPACシステムの機能要件 —国内大学図書館での実装可能性の考察—

文化創造研究科文化創造専攻図書館情報学領域
13002CLM 山本宗由

修士論文要旨

背景：楽譜・AV資料のような音楽資料は、多様な言語や媒体を持つことから、図書資料に比べて検索が困難である。国内の音楽図書館で提供されているOPACの機能は図書資料検索のためのものが中心であり、音楽資料検索においては特別な考慮が必要となる。しかし、国内のOPACに実装可能な音楽資料検索のための機能について研究はなされていない。

目的：本研究では、音楽資料の検索においてOPACの機能が不十分であることを前提として、音楽資料検索に必要な実装可能な機能について考察することを目的とする。

方法：音楽資料を検索する上で必要な機能について、OPACの実装状況を明らかにするための機能調査と、機能の重要度を明らかにするための重要度調査を行った。機能調査は、音楽学部・学科を設置している大学の附属図書館21館が提供するOPACを対象に行った。索引化、表示、絞り込み機能、検索語処理機能、検索支援機能の5種類による123の調査項目を作成し、国内OPACの機能の現状を把握した。重要度調査は、機能調査の対象OPACを提供している図書館21館への質問紙調査と、そのうちの2館の職員への面接調査により行った。質問紙調査と面接調査の結果を分析し、機能調査において挙げたすべての機能の重要度を明らかにした。機能調査と重要度調査により明らかとなった、音楽資料検索に必要な機能の実装状況と各機能の重要度を統合し、音楽資料検索においてOPACに必要な実装可能な機能について提言する。

結果：機能調査においては、タイトル、作曲者、出版情報の索引化と表示、出版年やフォーマットの絞り込み機能、数値の検索語処理機能、表紙画像の表示やスペルチェック機能などの検索支援機能の実装が確認できた。一方、音域や時代様式など音楽資料特有の情報の索引化や表示はなく、絞り込み機能も確認できなかった。また、外部データベースとの連携機能などの検索支援機能も確認できなかった。重要度調査においては、日本語の演奏手段や楽曲形式、フォーマットの索引化と表示、フォーマットの絞り込み機能、スペルチェック機能やサジェスト機能などの検索支援機能の重要度が高いことが明らかになった。

考察：索引化と表示においては、重要度の高い機能は実装されていたが、目録作成の問題などから十分に機能していなかったため、機能以外の改善が必要である。絞り込み機能においては、

主にフォーマットの絞り込みが重視され、少なくとも楽譜資料の種類やAV資料の媒体の種類は絞り込める必要がある。検索語処理機能においては、現状のままで問題がないといえる。検索支援機能においては、実装されている例がほとんどなかった。検索支援機能には近年導入されつつある機能が多数含まれるため、今後システムを導入する際にこれらの機能も含めて検討する必要がある。今回得られた結果は各図書館の利用指導の状況を考慮していないため、今後は図書館の状況に合わせた機能要件の検討が必要である。

結論：図書館員の視点から音楽資料検索においてOPACに実装する必要のある機能が明らかになった。本研究で提示した機能が、国内の音楽図書館OPACの提供において共通の目安として活用されることにより、適切な音楽資料の利用が促進されることが望まれる。